

Heroldo de HEL

N-ro 119

Junio 2008

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

ĉe HOŠIDA Acuŝi

〒053-0844 苫小牧市

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

宮の森町2丁目18-18

053-0844 JAPANIO

星田 淳 方

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: SATOO Eiji

*事務局: 佐藤英治

N-ro 45, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

〒060-0808 札幌市北区

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

北8条西3丁目札幌エルプラザ

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

市民活動サポートセンター 1階No.45

TEL(poŝ):090-2054-8751

TEL-FAKS:0144-58-2174

Retadreso : helano88@ka2.so-net.ne.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- Maja Kunlogado de HEL/北海道エスペラント連盟 (HEL) P. 2
 - 5月合宿報告/KAWAI Yuka, la Stud-Eduka Fakto de HEL
- Salutas S-ro ITIKAWA el Date/市川貴弘さん (伊達) 近況報告 P. 3
- Vizitis min iu francino/フランスのおばちゃんがやって来た : P. 4
 - 2度目のPasporta Servo体験/KAWAI Yuka (川合由香)
- Trajne tra Japanio/ Beatrice Allée P. 7
 - ／昨年の北海道大会に参加したフランス女性の日本旅行記
- Rememore al Bedaŭrata S-ino KIRIKAE Maciko/Gotoo Yosiharu P. 11
 - 切替真知子さんを偲んで/ 後藤義治
- Ĉu vi ne legos "Fremdulo"-n?/Gotoo Yosiharu P. 13
 - 「異邦人」を読んで見ませんか/ 後藤義治
- Danke ricevitaj -受領郵便物- (星田淳 扱い) P. 17
- [第5回委員会報告] Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido P. 18
- [第6回委員会報告] Protokolo de la 6-a Komitato Kunsido P. 19
- [編集後記/Redaktanto parolas ...] P. 20



Maja Kunloĝado de HEL

北海道エスペラント連盟 (HEL) 5 月合宿報告

KAWAI Yuka, la estro de Stud-Eduka Fakoj de HEL.

北海道エスペラント連盟研究教育部長 川合由香

Dum la 10a-11a/majo en Sapporo okazis Maja Kunloĝado de HEL. Ni lernis en 2 klasoj. La intensiva kurso por parolkapablo okazis sub la gvido de S-ro Hujimoto Tacuo, konsilanto de EPA. Li akcentis la gravecon de voĉlegado en ekzercado. Tiun klason vizitis 14 lernantoj.

La elementan klason de 5 komencontoj gvidis S-ro HOŜIDA Acuŝi per ĝeneralaj rakontoj pri lingvoj, historio de planlingvoj, Esperanto, k. a. Ĉiuj montris sian scivolemon kaj interesigon pri niaj aferoj. (La red.)

5 月10日 (土) ~5 月11日 (日)、札幌市の柴田内科循環器科研修センターにおいて、HEL 恒例の5 月合宿が開催された。会場の持ち主である柴田真吾氏 (内科医) をはじめとする、ふだんHEL とは別々に活動しているOmotanoj の助力により、講師としてEPA 相談役の藤本達生氏を講師として招聘することができ、また、参加者を増やすことができた。

藤本達生氏による「会話力強化コース」と、星田淳HEL 委員長による「入門コース」との2 つの講習を並行して行った。

藤本氏のクラスには14人が参加。藤本氏はわれわれが通常ついつい省略しがちな「音読の練習」の重要性を強調された。当たり前といえばそれまでであるが、自信を持って発音できないなじみの薄い単語、およびそれらによつて構成される文は、聴き取れない。このことを「聴き取り練習」で実感させられた。音声付きのエスペラント教材は多々あり、それらの効用はいうまでもないが、まずは「音読」の習慣を身につけよ、との藤本氏のご助言には説得力があった。藤本氏はまた、「読書百遍意自ずから通ず」ということわざを引用して、反復練習の重要性を強調された。筆者を含め参加者は、このあたりまえだが実行されにくい学習法の有益性と重要性に深く共感した。

星田氏の入門コースでは、「エスペラントとは何か」からその目的、歴史、現状から文法、簡単なあいさつ、会話まで、教材として

- ・国際語エスペラントへの招待 (ALE, JEI)
- ・橋渡しの言葉エスペラント (エスペラント伝習所須恵)

を使って進められた。北海道で圧倒的なシェアを誇る「北海道新聞」の札幌圏版

に「エスペラント合宿」の記事が出ると、川合・HEL 研究教育部長のもとに5名の方から問合せがあった。入門コース参加者からは、「非常に面白い」「エスペラントという言葉の存在は知っていたが、習う方法が判らなかつた。よい機会に恵まれた」「学校で教えてみたい(教師)」「英語の勉強にも役立つかも(高校生)」といった前向きな反応が得られた。入門コース参加者には、札幌エスペラント会による初級講座への参加を勧める予定である(写真ができ次第、川合が手紙を出すことになった)。

宿泊設備は非常に充実したものであったが、柴田氏はこれを格安で貸して下さった。感激したのが、「外部団体に貸す、というより、お友達が来たので泊める、という感じですね」という柴田氏のお言葉であった。これこそ samideaneco である。

かくして、成功裏に5月合宿は終わった。重要なのは、この合宿に参加してくれた新人を逃さないこと、そして学んだことを実際に実行し、各々の kapableco 向上に活かすことである。新人を得られればHELの活性化・若返りに役立つ。この合宿で得られたものを、今後の活動につないでいきたい。

Salutas S-ro ITIKAWA el Date

市川貴弘さん(伊達)から近況報告

S-ro ITIKAWA Takahiro el Date raportas pri si. Li estas instruisto de nove konstruita lernejo. Li ĉiujare parolas al la lernantoj pri Zamenhof kaj Esperanto. Li klopodas alkutimigi lernantojn al Esperanto kaj kelkaj lingvoj. Ĉe la malferma soleno de nova lernejo li gvidis lernantojn kanti "Freedom is coming" ankaŭ esperante "Venos libero". (La red.)

NPO法人シュタイナースクールいずみの学校は、全日制となってから約7年が経ちました。私は5年前から、高等部の国語教師として勤務しています。

授業は比較的自由に組むことができるため、是非エスペラントやザメンホフのことについても扱いたいと考え続けています。

これまで、中学3年生にあたる年齢の生徒には、毎年、ザメンホフの生涯とエスペラントに関して触れ、エスペラント自体の文法的概要にも触れてきています。理想を求めて生きた人、世界の言語や文化について紹介するのに最適であると考えたからです。私もエスペラントが話せるし、かつてリトアニアにエスペラントのみで一週間滞在したこともあるので、極めて陳腐で素朴な質問、「人工の言語が機能するのか」には幸い実例で答えられます。

もう少し下の年齢には、エスペラント訳の聖書のヨハネ福音書冒頭を、言語に目を向ける目的で暗唱させたこともありました。同時にポルトガル語やドイツ語

もやりました。特別教室で、エスペラントの寸劇をしたこともあります。

さて、「いずみの学校」の小中等部は、さまざまな方のおかげで今年度から晴れて特区学校法人となり、「北海道シュタイナー学園」として新しくスタートしました。活動場所が豊浦町に移り、新しい校舎で開校式を行うことができました。その際、全校生徒で南アフリカのFreedom is Coming という歌を歌いましたが、ある教師の勧めでエスペラント訳（とドイツ語訳）も付けたらどうかということで、急遽訳し、生徒とも練習して、当日皆で歌うことができました。エスペラントが何かということは既に多くの生徒も知っているのに、抵抗はありませんでした。

ちなみに歌詞は以下の通りです。短く明るい歌です。原文：Freedom is coming, freedom is coming, freefom is coming. o yes, I know.

エス訳：Venos libero, venos libero, venos libero, ho jes por ni.

最後のところ原文と少し違いますけれど、歌えることを第一に考えた結果です。

こんなことが、未来につながっていけばよいと願いつつ、今後も続けていきたいと思っています。

市川貴弘 拝

Vizitis min iu francino: la dua sperto de gastigado per Pasporta Servo
フランスのおばちゃんがやって来た：2 度目のPasporta Servo体験

KAWAI Yuka (川合由香)

Franca Sinjorino Sylvie Roques planis travojaĝi Japanion dum 2 semajnoj tra multaj urboj. S-ino Kawai gastigis ŝin dum la 25a-28a/aprilo en Bibai. Ĉu pro varmigo de la terглоbo? - nekutima varmigo en aprilo florigis sakurojn en Bibai, por bonvenigi ŝin? Ŝajne ŝi ĝojis trovi multajn unikajojn en Japanio. Sed ŝia francisma prononco de Esperanto(ekz. prononco de "r") suferigis S-inon Kawai. (La Red.)

私は日本最北のPasporta Servo登録者である。昨年7月に初めてフランスの親子4人をgastigiしたが（「Heroldo de IEL」N-rol115）、去る4月25日～28日、フランスからの単身の旅行者を泊めた。旅人の名はSylvie Roquesさん。44歳、離婚して独り身の女性。大学で法律と経済を修め、その道の事務所で働いている。彼女の勤務は月のうち20日強を休みなしで働き、残る10日弱にまとめて休む、という形態だそうだ。

Sylvieさんの旅程は、成田→東京→豊田（⇔恵那）→広島→神戸→京都（⇔奈良）→美唄→仙台→横浜→成田、という、約2週間に及ぶ長大なものだった。外国人旅行者の味方・JRパスをしっかりと活用。

事前にきいていたSylvieさんの強い希望は、「サクラを観たい」ということであつた。ステレオタイプと言えればそれまでだが、外国人には「日本＝サクラ」というイメージなのだろう。

しかし、北海道（道央）では、サクラの開花は平年で5月初旬である。彼女の来日には間に合わないのでは、と思っていたら、4月後半に記録破りの暖かさが続き、彼女を美唄に迎えたときには七分咲きになっていた。運の強い人だ。

京都を朝発つたSylvieさんは、夜遅く美唄に到着。夫と子供が寝たあと、自分の車で駅まで迎えに行った。改札口に大荷物と共に現れたのは、デバラの私を圧倒するような、巨体のおばさんであつた。なんとなくほっとする(?)。まずは「Bonvenon!」と握手。車に荷物を積み込み、自宅へ。この日は寝るだけ。洗濯物を室内干しするのに使っている6畳間に予め布団を敷いて、布団乾燥機をかけておいたのを片付ける。「Tio estas huto-*sekigilo*. Tio estas ne malhavebla en Hokkajdo, c'ar vintre multe neg'as.」と説明すると感心(?)してくれた。26日・27日が実質的に我が家で過ごした日である。ちょうど土日にあたつたので、夫も子供も休み。彼女は日本人が読んでも面白い(であろう)『Japon』というものすごく詳しい案内書を持っていた。「Onsen」だの「Yakitoriya」だのの説明もある。「この近くにonsenはあるか?」「あるある」「行きたい!あ、でも水着を持ってくるのを忘れた!」というので、「日本では、公衆浴場では水着使わないの。みんな裸で入るんだよ」と教えると「Nude!? C'u vere?」とおおいに驚いた様子だった。驚きながらもイヤとはいわず、日本の温泉を体験(奈井江温泉に案内した)。露天風呂に入って山のサクラを愛でることができて非常に喜んでた。

焼き鳥屋にも連れて行つたが、モツは苦手だったらしい。美唄の焼き鳥は1本の串にさまざまなモツが同居して刺さってくるのが特徴。これを勧めたのだが、彼女は敬遠して、精肉の焼き鳥ばかり食べていた。ちと残念。

27日は夫の車で札幌へ。小雨が降ったり止んだりの天気でもあり、旧道庁(赤レンガ)に入って展示物を見学。開拓以来の歴史について、私に可能な範囲で解説した。彼女は『Japon』で予習してきたらしく、アイヌ民族に関する展示を熱心に見ていた。私は、北海道の地名の多くがアイヌ語由来であること、そのいくつかの例を説明した。

サッポロビール園に案内して、ビールと、道民食・ジンギスカンの昼食。彼女はアルコールはいけるくちのようで、酒好きの夫も相好をくずす。夫もビールを飲んだので、禁酒中の私が復路のドライバーとなった。道央自動車道に乗ると、「車、少ないですね。東名高速(豊田のgastiganto氏が使つたらしい)は車でいっぱいでしたよ」と言っていた。「私は豊田の生まれなので、東名高速の混雑は知っています。北海道は人口密度が日本全体の平均の1/4ですから、車も少ないんですよ」と答えておいた。

彼女と私の夫 (ne-E-isto) とは、互いにブロークンな英語で用を足していた。夫の英語は中学2年相当の文法に完全な日本人発音 (子音と子音の間に余計な母音を挟んでしまう) で、ときどき学術論文調の単語が交じる・・・というものだが、彼女にはよく通じていた。日本人はしばしば「日本人は英語が下手だ」というが、もっと自信をもってよいのではないだろうか。言葉がわからず会話に加入れない子供 (小学1年) は少々参っていたが、彼女は子供にトランプの手品をやってみせたりしてくれた。バイタリティにあふれる、気さくで大変面白いgastoだった。

ところで夫 (道立林業試験場勤務) はこの9月、道の研究職員の「海外自主研修」で、1ヶ月、ドイツとフランスに行くことになった。海岸林や防風林の造成・改良がいまの彼の部署の仕事で、それらについて活発な研究をしている研究機関を探したら、ドイツとフランスの大学にいいところがあったらしい。彼のその予定を話したら、彼女、「フランスへ来たら、ぜひ私を訪ねてほしい」と言っていた。仕事の予定を書き込んだカレンダーを調べて、「○日から△日が空いているからどうぞ」とメモを残していったので、社交辞令ではないと思う。

彼女と私とは、女性の社会参加・就労環境・国の出生率向上策などの日仏の比較の話で盛り上がった。それから性 (女性の性的権利からコンドームの買い方に至るまで: シモネタではありません) についての日仏の比較の話でもヒートアップした。『Japan』ではちゃんと女性の地位について言及されており、「セクハラ」についての説明もあった。私は「Tio estas hontego de Japanio!!」と叫んで頭を抱えた。彼女はそれを見て笑っていた。

ほかに、雪捨て場にまだ雪の堆積が残っているのを見て「オー！」と驚かせてみせたり、日本の小学校の「家庭訪問 (フランスにはそういう習慣がない)」や「学校給食 (生徒が自分たちで配膳して教室で食べる)」などに興味を示していた。28日早朝、彼女は仙台へ向かって出発した。美唄駅まで彼女を送り、札幌行き特急に乗り込むまで見守った。風と雨が強く、彼女は「Vintras!」と叫んでいた。その後、彼女は無事仙台に、さらに横浜までたどりついて、ハマロンドのメンバーと地ビールの飲み会をしたとか。数日後、「無事自宅へ帰着しました。Dankon!」とのメールが入った。

彼女の 에스ペラント は訛がすごくて、(最たるものは $r \rightarrow h$)、しかも早口なので聴き取るのに大変苦労した。まあ、訛というのは「お互い様」のところがあるのだろうが。私は語彙力不足のため、「kiel diri...」を連発し、「Ejo, en kiu oni ac^etas...」とか「tiuj homoj, kiu(j) deziras...」とか、関係代名詞を使いまくった。

どんなgasto がやってくるか、ふたを開けてみないと判らない。刺激的でスリリングである。それがまたPasporta Servoの魅力なのかもしれない。gastigantoはやめられそうにない。今度はどんな人がくるのか、楽しみである。(fino)

Paniko₁ kaptis min kelkajn tagojn antaŭ la vojaĝo.

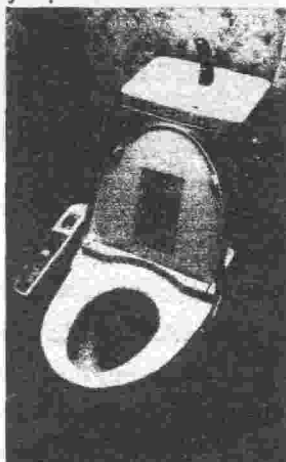
Scivolema, jes, tia mi estis vojaĝonte al Japanio. Mi feliĉis renkonti miajn fidelajn esperantajn korespondantojn. Mi volis scii ĉu Esperanto funkciis kiel komunikilo. Sed ĉu mi elturniĝos₂ pri la trajnoj? Ĉu la valizo estas tro granda aŭ tro malgranda, tro peza? Ĉu mi trafos miajn amikojn? Ĉu mi sukcesos miajn prelegojn? Ĉu funkcios la planoj pri IIK₃? Mi antaŭtimis ne ĉion memori, kion mi vidos, forgesi vidaĵojn, vortojn, vizaĝojn, ...

₁ 突然の恐怖

₂ <elturniĝi=elturni sin (el problemo aŭ aliaj malfacilaĵoj) (厄介を)回避する

₃ Internacia Infana Kongreseto 国際子供エスペラント大会

Sed apenaŭ alveninta₁ en Japanion la timo forvaporigis₂. Dum ĉiuj rapidis al la pasportkontrolo en la flughaveno mi flankenpaŝis al la unua necesejo, kiujn mi ekvidis – tute ne pro neceso, sed nur pro scivolemo: ĉu vere ekzistas tiaj enplankaj₃ necesujoj pri kiuj mi verkis artikolon ĉe vikipedio¹? Jes ja, dum malantaŭ la « okcidentstila » pordo troviĝis ujo kun ŝaltaro₄ ebliganta uzon de diversvarmaj kaj diversdirektaj akvoĵetoj kaj aerblovoj, malantaŭ la « japanstila » pordo estis simpla porcelana₅ enplanka uĵeto. Unuavide surprizis min la puro de la loko, kiun mi dum mia trisemajna vojaĝo fakte ĉie konstatis, ĉu en stacidomoj, ĉu en vendejoj, ĉu ĉe sanktejoj aŭ en malkaŝis aliajn kuriozaĵojn al mi: la kovrilo de la akvorezervujo estas tia, ke la post gargarado₆ enfluanta akvo estas uzata por lavi manojn antaŭ ol eniri la akvujojn – sen malŝpari apartan akvon. Foje ankaŭ troveblas aparateto kun laŭtparolilo₇, sufiĉas puŝi la butonon por aŭdigi bruon de fluanta akvo kaj tiel diskrete kaŝi aliajn bruojn – sen malŝpari akvon. Sufiĉe konata afero estas, ke oni neniam eniras japanan hejmon – ĉu domon, ĉu apartamenton – kun ŝuoj ĉepiede₈, eĉ kastelon mi vizitis nudpiede portante miajn ŝuojn en plastosako, sed en Japanio ekzistas eĉ necesejaj babuŝoj₉. Kiam ili estas, oni nepre ne eniru la ejon kun la hejmaj babuŝoj, sed lasu ilin antaŭ la necesejo kaj surmetu la necesojajn.



₁ =apenaŭ mi estis alveninta

₂ <for/vapor/iĝ/i 気化 (蒸発) して消える、消え去る

₃ <en/planka 床の中の、床に埋まれた

₄ <ŝalt/ar/o スイッチ郡、スイッチー式

磁器の

gargar/ado うがいの時の様なガラガラと音を立てる事

laŭt/parol/il/o 拡声機

kun ŝuoj ĉepiede=en ŝuoj

かかとのないスリッパ



Post pasportkontrolo necesis ŝanĝi mian JRⁱⁱ-kuponon kontraŭ JR-paso, belega karteto kun la fama cunamo-bildoⁱⁱⁱ. La rezervado – anglalingve – bone ekisⁱ kun juna oficistino, sed kiam ŝi sendis min al maljuna kolego, mi tuj spertis la komunikproblemojn kaŭzatajn de tia laŭdire internacia lingvo! Fine mi decidis zorgi pri la cetero poste kaj iris al la kajo por atendi mian unuan trajnon. Mi eniris vastan vagonon kun komfortaj seĝoj, multe da spaco por la kruroj, seĝaroj turneblaj, elektronika afiŝado pri la vojaĝo japane kaj angle. Oficistoj kaj vendistinoj, enveninte kaj elironte la vagonon, salutas – eĉ dorse al la pasaĝeroj! Trajnoj haltas precize je la ĝusta loko: troviĝas surplankaj markoj, kie la pasaĝeroj viciĝas bonorde kaj discipline: neniam okazas

puŝado aŭ taŭzado², kaj mirindas kiel rapide granda homamaso sukcesas eniri la trajnon. Dum noktaj horoj ekzistas specialaj vagonoj por virinoj por ke ne ĝenu ilin pli-malpli ebraj viroj, sed tion mi ne mem spertis. La noktaj trajnoj, kiujn mi uzis por vojaĝi al Hokajdo kaj reveni, estis aparte komfortaj. Kupeoj enhavis aŭ nur unu kuŝejon aŭ kvar vastajn apartigitajn per dikaj kurtenoj. Troviĝis sur la kuŝejo litotuko, kovrilo, kapkuseno, vestajportilo, jukata^{iv} kun zono kaj babuŝoj surplanke. Ĉiuj trajnoj ĉiam alvenis kaj foriris ĝustatempe, nur unufoje okazis malfruo – kvinhora! – pro noktaj inundoj, sed tio donis al mi la eblon elprovi³ la utilecon de pasporta servo⁴ en kritikaj situacioj.

¹=komenĉiĝis

²<taŭzi (髪などを)かきむしる、人を小突いたりする

³試みを尽くす、確実に試してみる

⁴pasporta servo TEJO(Tutmonda Esperanta Junulara Organizo)が主催しているエスペランチストのための地球旅行サービス網

Dum la longa trajnvojaĝo inter Hiroŝimo kaj Sapporo mi malkovris Japanion kiel montaran kaj arbaran landon. Japanoj havas specialan rilaton al arboj, tion mi malkovris en la ĝardenoj kaj parkoj, ĉie troveblas arboj, kiuj estas subtenitaj per fostoj aŭ



ĉirkaŭvolvitaj de tolaĵoj. Antaŭ vintro ĝardenistoj starigas grandegajn fostojn ĉirkaŭ certajn arbojn kiel tipion^v kaj fiksas al ili la branĉojn por ke tiuj ne rompiĝu pro la pezo de falonta neĝo. En Nikko, ĉirkaŭ la Toshō-gu, maŭzoleo¹ de la iama ŝoguno Tokugawa Iejasu, troviĝas miloj da altegaj kriptomerioj², ili estis plantitaj inter 1625 kaj 1645 okaze de la 32-a datreveno de la morto de Iejasu fare de daimio^{vi}, kiu ne estis sufiĉe riĉa por prezenti alian donacon. Estis plantitaj eble 200.000 arboj, inter ili ĉirkaŭ 13.000 ankoraŭ nun flankas la preskaŭ 37 kilometrojn longan aleon³, kaj multaj aliaj ĉirkaŭas la templojn kaj sanktejojn. Fulmoŝirmilon mi vidis fiksitan al grandega kriptomerio kaj metalaj kabloj iris de tiu ĉi al aliaj arboj por teni ĝin kaze de problemo. Tiuj grandegaj sovaĝaj arboj estis kontrasto al la zorge flegitaj arboj en parkoj, kie foje restis nur ŝelo de la trunko, sed verdis la branĉoj pro folioj.

¹ 靈廟

² 杉の類

³ 並木道



De la sankteja insulo Miyajima ĉe la suda parto de Honŝu al la varmegaj fontoj de Noboribetsu sur la plej norda insulo, de la ĉemara Jokohamo al la montara Jacugatake, de la pacifika al la japana maro, de la iam tute detruita Hiroŝimo al la prezervita Kioto, de la laŭrelaj rizkampoj al la lotuskampoj de Kanazawa, de la varmego kaj humido de Osako al la freŝeto en Sapporo, de la sovaĝa naturo sur Hokajdo al la malnovaj sanktejoj sur Honŝu, de la plej granda ligna templo en la

mondo^{vii} al hejma sanktejo en tatamokovrita ĉambro, de la rektaj tegmentoj de nordaj domoj al la multetaĝaj kurbaj tegmentaroj de pagodoj¹, de la trafika bruo en la urbego Tokio al la trankvilo ĉe vulkana lago en la nordo, de homamaso dum la Tenji-festivalo² en Osako al la soleco dum matena promenado laŭ rivero en Nikko, de bruegaj cikadoj al tumulta akvofalo, de nudelbovlo sur stacidoma kajo al ame hejmpreparita manĝo, de onigiri^{viii} dum ekskurso al manĝo en tradicia restoracio sur malalta tablo, de akvobotelo envagonara al bovlo da macha^{ix} en tepavilono³, mi malkovris Japanion per la okuloj kaj oreloj grande malfermitaj.



¹ 仏塔

₂(恐らく)天神祭り

₃茶室

Per okuloj, per oreloj, per buŝo, per nazo kaj per ĉiuj poroj: de mia haŭto mi ensorbis Japanion; la kulturon, la vivon, la rakontojn, la diferencojn, sed samtempe mi konstatis, ke ĉio kaj ĉiu similas – homoj estas homoj, grandaj aŭ malgrandaj, aziaj aŭ eŭropaj. Japanoj estas kiel ni, sentas kiel ni, eĉ se iliaj kulturo kaj edukado malsamas.

Kiam venis al mi esperantistoj sur kajo₂ aŭ en stacidomo, kiam mi ĉeestis kunvenon aŭ kongreson, kiam mi prelegis pri Bretonio, kiam ni babilis en metroo aŭ en aŭto, promenante aŭ trinkante teon – ni estis homoj, ni komprenis unu la alian kaj mi sentis min hejme! Ĉu pro Esperanto, kiu faciligis interŝanĝojn? Aŭ ĉu eble pro iu vivo, kiun mi iam travivis tie?

₁毛穴

₂駅のプラットホーム

PS : Elkorajn dankojn al Daishin, Isako, Hideko, Naoto, Acuŝi, Shouichi, Yoko, En, Tadaŝi, Sayoko, Kaoruko, Shigeko, Sasamori, Noriko, ...

ⁱ http://eo.wikipedia.org/wiki/Necesejoj_en_Japanio

ⁱⁱ Japan Rail, la plej granda inter la japanaj fervojkompanioj

ⁱⁱⁱ far Katsushika Hokusai (<http://eo.wikipedia.org/wiki/Cunamo>)

^{iv} maldika kotona somera kimono

^v ronda pinta tento de nordamerikaj indianoj

^{vi} japana feŭda sinjoro

^{vii} Todai-ji en Nara

^{viii} japana « sandviĉo », triangula rizbuleto kun fungoj, picoj, umeo aŭ aliaj ingrediencoj, foje ĉirkaŭvolvita de norio

^{ix} japana verda pulvora teo

本文、及び写真とも、フランス、ブルターニュ・エスペランチストの会報 **La verda Triskelo** 誌より本人の同意を得て転載しました。(日本語の注釈は、椿)

切替 眞知子さんを偲んで

札幌エスペラント会 後藤義治

切替英雄さんは札幌エスペラント会の会長である。かれはこの年2月13日の早朝、最愛の奥様を失った。奥様は1953年生まれというから54歳でこの世を去ったことになる。切替さんは奥さんとの思い出を、一冊の本にした。内容は奥様が亡くなる一年前から極楽浄土に導かれる18時間余り前という、私にはとても考えることすらできない壮絶な闘病生活を記したものである。扉には「人生は作品である。作りつづけたことに恥づることはない」と眞智子さんの遺言があり、私には明治女の凛とした響きを感じる。この本をやさしく包むのは本村園子ドロテアさんを初めとする友人たちの愛と二人のお子さんと母との絆である。切替さんの巧みを編集は妻への愛情が生み出した様にも見える。

彼が札幌エスペラント会の会長を引き受けてくださったのは、昨年のザメンホフ祭に先立って開催された、臨時総会である。私も寝たきりになる可能性を医者から宣告された時だったが、眞智子さんの日記を読むと、妻の苦しみの戦いを見据えながらあえて決断を下された勇氣に敬意を表します。

記述の一部を引用して奥様の人となりをご紹介します。

◎とてもとても文学的な

○月○日 ○曜日

暖かく晴れて、雪は更に減っていく

午後、ヒデ、遼子と小樽石山町に行く。父は変わらず元気である帰って夜遅くシッポ(愛犬の名)と散歩に出ると、空気はだいぶ冷えていた。

◎病院に入る

○月○日 ○曜日

晴れときどき雪

久しぶりにかなりの雪が降った。10時に〇〇札幌医療センターに入院。X線、心電図、尿検査をした。病院は新しくきれいで住環境がよい。 以下略

◎病状

○月○日 ○曜日

前略、15:00より主治医の〇〇先生から病状と治療について説明があった。肺腫瘍およびリンパ腫瘍は非小細胞ガンであり、放射線・抗癌剤がききにくいガンのため、ガンが消えることはないであろうとのこと。 後略

◎闘病

○月○日 ○曜日

面談、朝、雪、晴

14:00、〇〇医師との面談。「肺原発巣、リンパ転移は若干小さくなった程度で、残念ながら脳に転移が見られる」と言われた。

脳に転移という言葉で背中がゾクッとした。全脳照射を進めることに決まる。

◎家族

○月○日 ○曜日 36, 8°C 53, 8kg 雪、晴
早朝は厚い雪雲であったが、明るく晴れた。お昼に遼子と宏彰が病院に来る。きのこ汁と山芋持参。
2人とヒデさんはきのこうどんを食べてきたという。15時にヒデもやってきた。 後略

◎友人

○月○日 ○曜日 曇りときどき雪
15時、Aさんがいっぱいのお土産を持ってお見舞いにくる。19時、B子さんがいっぱいのお土産を持ってくる。Cさん、Dちゃんもいっしょである。

◎エスベラント

○月○日 ○曜日 晴
夕方、ヒデが来て、16:30ころEちゃんも来る。今日のエスベラント会はFさんも来るそうで、これからパエリアを作るという。

◎最後の挨拶

2007年 月 日私は54歳の人生を終えました。

——略——

1953年私は父○○、母○○の3女として生まれました。——略——通称「手宮富士」と呼ばれる小山の中腹にある木造の小さな家で育ちました。——略——空気の澄んだ日には海の向こうに暑寒別岳などの増毛連山が見え、大きくなったら行ってみたいと思いました。

——略——

高校は——略——乱読時代になりました。一年に文庫本を200冊くらい読みました。

——略——

1981年28歳の時、北大文学部で同期だったアイヌ語研究の切替英雄と結婚します。翌年には娘遼子が誕生します。

——略——

殺し合いのない、そして生物が豊かに育つ地球であることを希求します。

2007年 月 日

切替真知子

昨年の12月SESザメンホフ祭の帰り道、切替さんは「癌とは壮絶なものだ」とポツリともらした。残念なことに私は一般的に感情でしかその言葉を捉えることができなかつた。慙愧に耐えない。 今掌

「異邦人」を読んで見ませんか

札幌エスペラント会では今、フランスの文人カミュの「異邦人」を読んでいます。アルベルト・カミュは1913年の暮れ、アルジェリアで生まれた。父を戦争で早く亡くしたが、リセ（高等学校）の先生に勧められ文学を目指す、だが母は文盲だった。『異邦人』は四年間の歳月をかけて彼が29歳の時発表した。この間、シモーヌ・イエとの離婚、フランシーヌと再婚、新聞社を解雇され、結核のため咯血しながらの作品だ。1944年に再びアングラ紙コンパの編集に携わり、翌年勃発したアルジェリア暴動で健筆を振るう。1947年『ペスト』を刊行、戯曲では『カリギュラ』を書いてその名を不動なものにした。1957年44歳の時ノーベル文学賞を受賞、1960年1月4日交通事故で亡くなった。46歳だった。

次に異邦人のほんのさわりを紹介しますので、原作でも、エスペラント訳でも、邦訳でも通して読んでみてください。前半は青年マルソーが動機なき殺人を犯すまで、後半はその裁判を通して評価を下すという構成。神、気象現象、人間の行動、心の移り変わりが非常に細かく観察され、何回読んでも興味が尽きない作品です。

Albert Camus

L'etranger

Les arabes avançaient lentement et ils étaient déjà beaucoup plus rapprochés. Nous n'avon pas changé notre allure, mais Raymond a dit: "S'il y a de la bagarre, toi, Masson, tu prendras le deuxième. Moi, je me charge de mon type. Toi, Meursault, s'il en arrive un autre, il est pour toi." J'ai dit: "Oui" et Masson a mis ses mains dans les poches. Le sable surchauffé me semblait rouge maintenant. Nous avançons d'un pas égal vers les Arabes. La distance entre nous a diminué régulièrement. Quand nous avons été à quelques pas les uns des autres, les Arabes se sont arrêtés. Masson et moi nous avons ralenti notre pas. Raymond est allé tout droit vers son type. J'ai mal entendu ce qu'il lui a dit, mais l'autre a fait mine de lui donner un coup de tête. Raymond a frappé alors une première fois et il a tout de suite appelé Masson. Masson est allé à celui qu'on lui avait désigné et il a frappé deux fois avec tout son poids. L'Arabe s'est aplati dans l'eau, la face contre le fond, e il est resté quelques secondes ainsi, des bulles crevant à la surface, autour de sa tête. Pendant ce temps Raymond aussi a frappé et l'autre avait la figure en sang. Raymond s'est retourné vers moi et a dit: "Tu vas voir ce qu'il va prendre." Je lui ai crié: "Attention, il a un couteau!" Mais déjà Raymond avait le bras ouvert et la bouche tailladée.

Elfrancisgis Michel Duc Goninaz

La araboj iris malrapide kaj estis jam pli proksimaj al ni. Ni ne modifis nian paŝadon, sed Rajmondo diris: "Se ekestos batalo, vi, Mason, prenos la duan. Koncerne min, mi okupiĝos pri mia ulo. Vi, Merso, se alvenos alia, zorgu pri li." Mi diris: "Jes" kaj Mason metis la manojn en siajn poŝojn. La ardigita sablo ŝajnis nun al mi ruĝa. Per regulaj paŝoj ni proksimiĝis al la araboj. La distanco inter ni regule malpliĝis. Kiam ni proksimis al ili nur kelkajn paŝojn, la araboj haltis. Mason kaj mi bremsis nian iradon. Rajmondo direktiĝis rekte al sia ulo. Mi malbone aŭdis, kion li diris al li, sed la alia gestis, kvazaŭ li frapos lin per la kapo. Tiam Rajmondo frapis unuafoje kaj vokis al Mason. Mason iris al tiu, kiu estis al li destinita kaj frapis dufoje per sia tuta korpomaso. La arabo sterniĝis en la akvon, kun la vizaĝo ĉe la fundo, kaj restis tiel kelkajn sekundojn, dum akvovezikoj krevis ĉe la surfaco, ĉirkaŭ lia kapo. Dum tiu tempo Rajmondo ankaŭ frapis, kaj la vizaĝo de la alia estis sangoplena. Rajmondo sin turnis al mi kaj diris: "Vi tuj vidis, kion li ricevos." Mi kriis al li: "Atentu, li havas tranĉilon!". Sed Rajmondo jam estis ricevinta vundon ĉe la brako kaj tranĉostrekojn ĉe la buŝo.

日本語訳 後藤義浩

アラビア人はゆっくりとした足取りで、こっちのほうへ歩いてきた。我々も歩調をかえずに進んだ。レイモンドは「もし喧嘩になったらマソンは二人目の奴をやってくれ、おれは例の野郎をやる。マルソー君は他に誰かが加勢したらそいつを頼む」といった。私は「わかった」と返事した。マソンはポケットに手を突っ込んでいた。灼熱の砂は赤く見えた。機械的に足をはこび、同合いも同じペースで縮まった。男達の近くまで来た。後わずかのところでアラブが足を止めた。マソンと私は足を緩めたが、レイモンドは真っ先に飛び掛った。レイモンドが何か言ったが良く聞こえなかった。相手が顔突きに出たとき、レイモンドは一発殴ってから、マソンに合図した。かれは目指す男を全身に力を込め、二打で張り倒した。男は水の中に顔を突っ込み一瞬動かなくなり、頭の両側から水のしぶきが噴きだした。レイモンドはそのあいだも踏み続け、くだんの男は血まみれになった。レイモンドが私のほうを振り向いて「目に物を見せてやるぜ」といった。「気をつけろ、奴はドスを持つてるぞ」と怒鳴ったが、とき遅く、腕をえぐられ、唇にも刃が走った。

Masson a fait un bond en avant. Mais l'autre Arabe s'était relevé et il s'est placé derrière celui qui était armé. Nous n'avons pas osé bouger. Ils ont reculé lentement, sans cesser de nous regarder et de nous tenir en respect avec le couteau. Quand ils ont vu qu'ils avaient assez de champ, ils se sont enfuis très vite, pendant que nous restions cloués sous le soleil et que Raymond tenait serré son bras dégouttant de sang. Masson a dit immédiatement qu'il y avait un docteur qui passait ses dimanches sur le plateau. Raymond a voulu y aller tout de suite. Mais chaque fois qu'il parlait, le sang de sa blessure faisait des bulles dans sa bouche. Nous l'avons soutenu et nous sommes revenues au cabanon aussi vite que possible. Là, Raymond a dit que ses blessures étaient superficielles et qu'il pouvait aller chez le docteur. Il est parti avec Masson et je suis resté pour expliquer aux femmes ce qui était arrivé. Mme Masson pleurait et Marie était très pâle. Moi, cela m'ennuyait de leur expliquer. J'ai fini par me taire et j'ai ai fumé en regardant la mer.

Tiam Mason eksaltis antaŭen. Sed la alia arabo estis restariginta kaj lokiĝis post tiu, kiu tenis tranĉilon. Ni ne aŭdacis moviĝi. Ili malrapide retroiris, ne ĉesante nin rigardadi kaj sin minace protekti per la tranĉilo. Kiam ili konstatis, ke ili disponas sufiĉan distancon, ili rapidege forkuris, dum ni restis senmovaj, kvazau alnajlitaj sub la suno, kaj Rajmondo premtenis sian brakon, el kiu gutadis sango. Mason tuj diris, ke proksime estas iu kuracisto, kiu pasigas ĉiun dimanĉon sur la plataŝo. Rajmondo volis iri tuj al li. Sed ĉiufoje, kiam li parolis, la sango de lia vundo bobelis en lia buŝo. Ni lin eksubtenis kaj revenis al la dometo kiel eble plej rapide. Tie Rajmondo diris, ke la vundoj estas supraĵaj kaj ke li povas iri al la kuracisto. Li foriris kun Mason kaj mi restis por klarigi al la virinoj la okazintaĵon. S-ino Mason estis ploranta kaj Maria palega. Min tedis la klarigado. Mi fine ekmutis kaj fumadis, rigardante al la maro.

その時マソンは後ろに飛びのいたが、もう一人のアラブ人も立ち上がってドスを持った男の後ろについた。我々はあえて深入りを避けたが奴等はドスを後ろ盾にしてこっちを見据え、脅す素振りを見せながらゆっくりと後ずさりした。充分距離が取れたと見るや一目散に逃げ出した。その間我々は灼熱の下で釘づけにあったように動けずにいた。レイモンドは血が滴る腕を押さえていた。マソンが近くに医者がいて日曜日は丘のコテージで過ごしているといった。レイモンドはすぐにも行きたがったが、喋るたびに口から血が噴出してくるので、取り急ぎ彼を支えて

小屋に戻った。レイモンドは傷は浅いから一人で行けるといったが、マソンが付き添って医者に行った。私は残って先ほどのいきさつを説明した。マソンの妻は涙を流し、マリアは青ざめた。最後には話すのも面倒くさく、黙り込んでタバコをふかしながら海を見ていた。

Vers 1 heure et demie, Raymond est revenu avec Masson. Il avait le bras bande et du sparadrap au coin de la bouche. Le docteur lui avait dit que ce n'était rien, mais Raymond avait l'air très sombre. Masson a essayé de le faire rire. Mais il ne parlait toujours pas. Quand il a dit qu'il descendait sur la plage, je lui ai demandé où il allait. Il m'a répondu qu'il voulait prendre l'air. Masson et moi avons dit que nous allions l'accompagner. Alors, il s'est mis en colère et nous a insultés. Masson a déclaré qu'il ne fallait pas le contrarier. Moi, je l'ai suivi quand même. Nous avons marché longtemps sur la plage. Le soleil était maintenant écrasant. Il se brisait en morceaux sur le sable et sur la mer. J'ai eu l'impression que Raymond savait où il allait, mais c'était sans doute faux. Tout au bout de la plage, nous sommes arrivés enfin à une petite source qui coulait dans le sable.

Ĉirkaŭ la unua kaj duono Rajmondo revenis kun Mason. Lia blako estis bandaĝita kaj ĉe la buŝangulo estis sparadrapo. La kuracisto diris al li, ke ĝi tute ne gravas, sed Rajmondo ŝajnis tre malserena. Mason provis ridigi lin. Sed li ne ĉesigis sian mutadon. Kiam li deklaris, ke li tuj iros al la strando, mi demandis lin, kien li intencas. Mason kaj mi diris, ke ni deziras lin akompani. Tiam li koleriĝis kaj insultis nin. Mason diris, ke ni ne devas agi kontraŭ lia volo. Mi tamen sekvis lin. Ni marŝis longe sur la strando. La suno tiam estis premega. Ĝi diseriĝadis sur la sablo kaj la maro. Al mi ekŝajnis, ke Rajmondo scias, kien li celas, sed ĝi estis sendube falsa impresio. Ĉe la fino de la strando ni atingis fonteton.

一時半頃、レイモンドとマソンが帰ってきた。腕には包帯を巻き、口の所は絆創膏が貼られていた。医者はたいした事は無いと言ったそうだが、レイモンドは訝えない顔をしていた。マソンが笑わせようとしたが、彼は黙りこくったままだった。急に浜辺に行きたいというので、なんと物好きなどきりかえた。じゃあマソンと行くと言うと怒り出して我々を罵った。マソンは逆らわない方がいいといったが、私がついていった。長い間浜辺を歩き回った。日差しは相変わらず強烈だった。熱射は砂に刺さり、海面に碎け散った。私はレイモンドが行き先を決めていると思っていたがどうも相でもないようだ。浜辺の碕に辿り着くと小さな泉があった。

*NOVA VOJO: N-ro 439 aprilo 2008, EPA (エスペラント普及会)、A5 X32 頁中E文7頁。2月のアジア大会の開催地 Bangalore に30年前に結成された UHA (人類愛善会) 支部の支部長の活動報告。アジア大会の参加記9頁。ヨーロッパのエスペラントPR事情がおもしろくわかるのは三好鋭夫の「フランス人重鎮の厚い壁を崩す」。

Rakontaro ISE は藤本達生による伊勢物語のE訳。
*Novajoj Tamtamas: N-ro 226/aprilo 2008, JER(Jokohama Esperanto-Rondo) 発行、A4X4頁、全文E。40-jariĝis JER, Hamarondo, アジア大会報告等。

*La Tamtamo: 第398号, 2008年4月, A4X 6頁、JER 日本文。

*La Tamtamo: 第398号, 2008年4月, A4X 6頁、JER 日本文。横浜エスペラント会(ハマロンド)発足40周年を振り返る巻頭言、入門講習予告、アジア大会報告など。

*札幌農学校(蝦名賢造著、図書出版社発行)の第3章「クラークとその弟子たち」の部分コピー、寄贈者不明。

*Eskalo 2008年5月7日、第126号(2008年第2号)、川崎エスペラント会 B5X6頁の内E文1頁。

*La Movado; KLEG (関西エスペラント連盟) 発行、N-ro 687 maj. 2008, B5 X 20頁のうちE文3頁。巻頭言は岡本非暴力平和研究所の岡本三夫所長。北海道5月合宿の予告あり。藤本達生訳によるRakontaro Genĝ (源氏物語)が始まった。

*Mejlŝtono 2008 majo N-ro 207, 仙台E会: B5X12 頁中E文は1頁半。「エスペラントを育てた人々」は昭和

初期(1930年代)からの pioniroj の話を連載している。Franca samideano Sylvie (美唄にも来た)の案内記

*Novajoj Tamtamas: n-ro 227/ majo 2008, JER発行、A4X4頁、全文E。

Hama-Rondo (横浜E.会)40年を振り返った Hamaronda Vespero, アジア大会(Bangaloro)での UEA会長 P. Daŝgupto の講演、Vivo kun Umeo は梅と菅原道真、水戸偕楽園などの歴史を解説。

*NOVA VOJO: N-ro 440 majo 2008, EPA, A5 X32 頁中E文6頁。4月5-6日北九州市で開かれたエスペラント国際合宿と2月のアジア大会の参加記が11ページを占める。国際合宿の韓国からの参加者4名は皆感想発表。日本の参加者にはいい刺激だったようだ。

*La Tamtamo: 第399号, 2008年5月, A4X 8頁、JER, 日本文。Novajoj Tamtamas の記事を日本語にしたものも入っている。

*Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/ Majo 2008 N-ro 228; B5 X16頁中E文8頁、日本文。第57回関東エスペラント大会(5月24~25日)の報告、写真(黒白)多数。埼玉大学の佐々木照央さんのエスペラント授業経験がおもしろい。「黄土高原に14年間植林した男」(饗庭三泰)は、ne multe konata laboranto por internacia kunlaborado por mediprotektado について。黄土高原の緑化は日本の環境改善につながっている。

*NOVA VOJO: N-ro 441 junio 2008, EPA, A5 X32 頁中E文3頁。「エスペラントのロカルノ会議」は UEAが1926

年に開いたものでその場所は前年ヨーロッパ列強が集まってロカルノ条約を締結した、同じ会議場だったのでこの題がついている。

*受講生通信 第118号, 2008-6-01, 沼津エスペラント会, B5X14 頁の内E. 文1頁強。掲示板、エスペラントの催物の欄が充実してきた。北海道の催しも早めに出したい。

*La Movado; KLEG発行, N-ro 688 jun. 2008, B5X 16頁のうちE. 文3頁半。巻頭言は「国際言語年に思う：複数言語主義とエスペラント」(寺島俊穂)。この筆者、7月号には「地球民主主義

と言語問題」を論ずる予定。岡山の日本大会でも歌われる予定の「エスペラント版 HEIWAの鐘」について村田和代の文。Kurantaj Vortoj (時事用語) に派遣労働者、ワーキングプア、格差社会、硫化水素自殺、など。

*La Movado; KLEG発行, N-ro 689 jul. 2008, B5X 16頁のうちE. 文2頁半。巻頭記事は初めて韓国の仲間と韓国で共同開催した林間学校(Friska Lernejo) について。北海道5月合宿の記事と写真あり。Mikspotoにヤマサキ・セイコーによる平家物語部分訳の記事。源氏物語E. 版は今 La Movadoに連載中。

[第5回委員会報告] Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido

日時：2008年4月5日(土) 13時～

場所：札幌市北8条西3丁目 札幌エルプラザ4階 男女共同参画研究室3

出席：川合、後藤、佐藤英治、椿、星田(記録)

欠席：佐藤不二雄、阿部、横山、須藤、中田、大山口

議事

*財政：S-ino 椿 を会計委員(kasisto), S-ro 佐藤英治を副会計委員とし、4月15日苫小牧での例会の機会に業務分担などについて打ち合わせてもらう。

*広報：HEL 掲示板へ参加者が固定しているとの批判があったが、新しい参加者が現れてきた。Bonvenon!!!! ほかの方も機会あれば参加して意見を書き込んでほしい。(URLは <http://6607.teacup.com/helesp/bbs> です)

北方圏センターのホームページに5月合宿の予告を出せる見込みだが、出たかどうかは、未確認。ほかの催しもできるだけネットなどに出したい。

*メールマガジン：第113号発行数(2008年3月28日) 1016部

*情報・宣伝：SES通信は切替さんが作ることにしているが、不幸もあり、3月末まで発行されていない。

少年写真新聞社の壁新聞(昨年末発行)の展示状況：自宅玄関前(椿)、苫小牧市文化交流センター、苫小牧市図書館。学校図書館にはまだ可能性がある。

*教育・研究

札幌、苫小牧の例会での学習、従来通り。

苫小牧では5月13日から入門講習会を開く。

佐藤(英治)委員提案：Sennaciulo に出ている農業問題関係の文を読んで討論しよう。

個人教授関連：JEI 機関誌に出ていた窪田倫子さん、切替さんのもとでの個人

教授の成果が横浜UKで発揮された。札幌の会合にも出てもらえるように連絡をとりたい。(川合)

*図書：中田部長欠席、報告なし

*機関誌：4月5日 Heroldo de HEL N-ro 118 印刷発行(120部)。

原稿を集めるために、計画的に会員に依頼してはどうか、との意見があった。

*年間計画

5月合宿：10～11日札幌で開催(Heroldoに発表)。マスコミにどう出せるか考えよう。

北海道大会：川合委員から提案のJR北海道の研修施設で9月13(土)～14

(日)と予定して佐藤・後藤委員が訪問、予約する。

*社会活動関連：HELの活動ではないが

「北海道自由エスペラント協会」(LIBERA ESPERANTO-ASOCIO en HOKKAJDO, 代表：宮沢直人)から個人的に通訳の依頼があり、星田が3月15日札幌・北海道クリスチャンセンターでの集会：「反G8サミット北海道(アイヌモシリ)連絡会」の結成集会に出席した。LEAが招いた韓国からの2人の案内、通訳など。宮沢代表の挨拶では市民運動の国際連帯のためのことばとしてエスペラントの意義を強調していた。

*その他：HELの掲示板に「投稿記事」として既にHELとは関係がない宮沢直人氏の「あるエスペランティストの回想」が出ているのはおかしい、と疑問が出された。(のち削除しました)

*次回委員会：2008年5月11日(日)12時以後、

札幌市西区西野1条7丁目 柴田内科循環器科研修センターにて

(5月エスペラント合宿終了後)

[第6回委員会報告] Protokolo de la 6-a Komitato Kunsido

日時：2008年5月11日(土)13時～15時

場所：札幌市西区西野1条7丁目 柴田内科循環器科研修センター

(5月エスペラント合宿終了後)

出席：川合、後藤、佐藤英治、椿、星田(記録)

欠席：佐藤不二雄、阿部、横山、須藤、中田、大山口

議事

*組織：会費滞納者に会計担当から請求書を送る。

*広報(HPなど)：横山部長(欠席)から提案されていたHELのメールアドレス(en komputilo de プロバイダ)の容量拡張を了承。毎日迷惑メールを含めて二、三百通の受信がありすぐ千通のlimoに達する現状。

従来メールアドレスサイズ20MB、1000通までという設定になっていたが315円/月を支払ってメールアドレス拡張サービスの200MB、通数無制限とする。

HELの電子掲示板「エスペラントよろず相談室」はエスペラント関連掲示板

の中でアクセス数トップだが今後もこれを維持するように皆さんのアクセス、書き込みを期待する。URL は <http://6607.teacup.com/helesp/bbs> です。

*情報・宣伝：入門講習会のPR関係

苫小牧：5月13日開講予定

札幌：6月初めからを予定。

5月合宿の入門コースで使った『橋渡しの言葉エスペラント』の出版元「エスペラント伝習所須恵」（福岡県）から

> 一部50円で30部ほどご注文いただければ、送料は当方で負担しますとの提案があったので注文して宣伝用、入門講習用などに使う。

「国際語エスペラントへの招待 (ALE, JEI)」は かなり在庫があったと思うが、今後も入門講習、宣伝用に使えるので在庫を確認すること。

*教育・研究

札幌、苫小牧の例会は従来通り。

*機関誌

宣伝用を含め110部印刷でいいと思う。次号は6月28日119号を発行。

*北海道大会/年間計画

JR研修施設(苗穂)の研修室(20人収容)を

9月13日(土) 13~21時

9月14日(日) 9~17時 予約した。

テーマとしては 国際言語年、国会のアイヌ先住民承認に関連したものが考えられる。

*次回委員会

6月28日 13時から エルプラザ4階 札幌市男女共同参画研究室 3番

なお同日 10時から 市民活動サポートセンター印刷室で機関誌印刷。

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*5月合宿に新人5人(入門コース)。しかしその後の札幌の講習にはその勢いは続かなかった。どうしたら集まってもらえるか、考えましょう。

*2010年アジア大会があるモンゴル・ウランバートルから学生20人が文通希望。

Esperanto-klubo ĉe la Instituto de la Sociaj Sciencoj
Sinjoro Dorg' Balduuziin (instruisto) : Post-kesto 456., Ulaanbaatar
210523. Mongolio / Ret-adreso: baldorghbalin@chिंगgis.com

*S-ro Mramba Simba (タンザニア) が指導している Esperanto-Klaso,
Salama Secondary School, P.O Kesto 51, Bunda, Tanzanio

でも 15~19歳の生徒たちが文通希望。若い人たちにエスペラントが使える言葉だと実感させ、世界へ日本へ目を向けてもらおう。1枚の絵はがきで出来るのです。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、 青年会員(26歳未満) 1500円、

購読会員 2000円、 家族会員 1000円